

# 貝塚市子育て世帯ワークショップ 実施報告書



令和7年6月14日(土) 開催

貝塚市総合政策部政策推進課

# 目次

開催概要 . . . . . P. 2

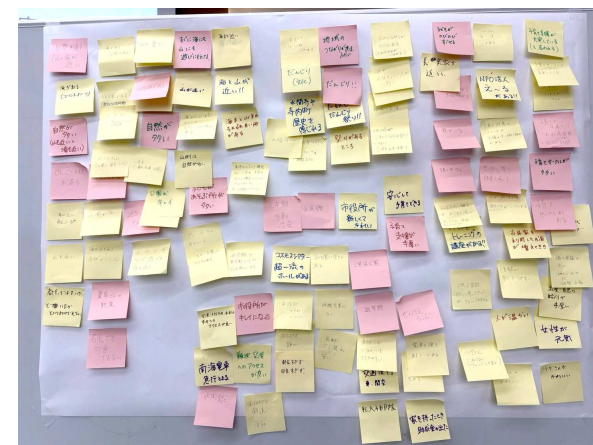
ワークショップの目的と背景 . . . . . P. 2

実施内容 . . . . . P. 2

実施結果の報告 . . . . . P. 3

プロジェクト企画書・発表内容 . . . . . P. 4

資料 . . . . . P. 16



## 01 開催概要

日時：令和7年6月14日(土) 13:30~16:30  
場所：貝塚市民福祉センター 6階 多目的室  
参加者：子育て中の保護者 18名（4グループ編成）  
進行形式：対話型ワークショップ（グループ作業＋発表）

## 03 実施内容

開会・市長挨拶・目的説明（政策推進課）  
オリエンテーション（NPO法人えーる）  
【STEP1】未来シート記入・貝塚市のいいところ記入・自己紹介  
【STEP2】「貝塚市のいいところ」グループ共有  
【STEP3】課題の記入とグループ内共有・解決策出し  
【STEP4】他テーブル共有・休憩  
【STEP5】課題選定・プロジェクト企画書づくり  
【STEP6】グループ発表（1グループ7分）  
市長講評  
閉会・記念撮影

## 02

## ワークショップの目的と背景

テーマ：若者・子育て世代から選ばれるまち かいづか

目的：「第6次貝塚市総合計画」の策定にあたり、市民の生の声や発想を反映するため、子育て世帯を対象とした参加型ワークショップを実施。

背景：人口減少や若年層の転出など市が直面する課題に対して、当事者の意見を施策づくりに活かす姿勢が求められている。



## 貝塚市のいいところ 貝塚市のいいところをグループで出しました

### 自然・環境



- ・海も山もあり、自然がたくさん
- ・公園がある
- ・自然が豊か
- ・海も山も近い(二色浜・葛城山)
- ・せんごくの杜がある
- ・土・水・火・木などで遊べる場所がある
- ・農家さんの野菜がおいしい
- ・水間寺や寺内町で歴史を感じる
- ・都会ではない田舎でもない
- ・コスモシアター(超一流のホールがある)

### 子育て・教育



- ・子どもがのびのび過ごせる、遊べるところが多い
- ・安心して子育てができる
- ・子育てサークルが充実している
- ・子育て支援が手厚い  
(すくすく応援隊・赤ちゃん訪問など)
- ・子育て対象のイベントや場がたくさんある
- ・子育て情報がたくさんある  
(ガイドブック・子育てナビ・公民館・広報・ためまっぷ)
- ・プレーパークがある
- ・小中学生向けの講座がたくさんある
- ・自然遊学館や善兵衛ランドなど学べる場がある
- ・ペアレントトレーニング講座がある
- ・NPO法人えーるがある

### 行政・サービス



- ・子育て支援(すくすく応援隊・補助金等)
- ・転入補助金がある
- ・出産育児の給付が手厚い
- ・市役所がキレイ
- ・キャラクターのつげさんがかわいい



### 地域の人・雰囲気



- ・人が温かい
- ・女性が元気
- ・伝統的なまつりがある
- ・たんじり文化
- ・スポーツ・芸術に秀でている人が多い
- ・公民館活動が活発

### 交通・利便性

- ・難波、空港へのアクセスが良い
- ・水間鉄道



## Aグループ キャッチフレーズ：おなかいっぱいになれる貝塚市

プロジェクト名	USK（ユニバーサルスタジオ・カイツカ）	儲かる農業「つげさん米」「つげさんワイン」
内容	1日過ごせる複合施設 シェルピア立体駐車場横の土地活用	農業の企業化（公務員化） 農業に関連する学校を作る
具体的なアクションプラン （市民にできること）		道の駅を作る 公共施設への直販
解決できる課題	市外からの収益・集客UP	学校給食の充実 雇用・転入UP 食の安心安全 インフレ
行政の強みを活かすとしたら	子育て応援券の活用 市職員の派遣	話題性 ふるさと納税

---

---

# 発表内容

## プロジェクト名：儲かる農業「つげさん米」「つげさんワイン」

今回ご紹介するのは、「儲かる農業」としての取り組みです。

ブランド名は「つげさん米」「つげさんワイン」。

まず、農業を企業化・公務員化します。月給制を導入することで、農家が個人で抱える天候リスクや長時間労働・低賃金といった課題を解決します。農地は特区扱いにし、現在の日本では制限の多いドローン散布や自動運転トラクターなどのスマート農業技術を積極的に導入し、徹底的な効率化を図ります。

さらに貝塚市としては、農地や農機具などをレンタルする仕組みを整え、それを活用することでビジネスとしてのリターンを得られるようにします。事業化することで、個人のノウハウに頼る属人化を防ぎ、蓄積されたノウハウを横展開（共有）し、より効率的な運営につなげます。また、参加ハードルを下げる効果も期待できます。「来年からあなたは農家です」と言うよりも、「来年からあなたは公務員として農業に携わります」と言ったほうが、確実に人は集まりやすい。そういった制度設計にしていきます。

また、それに関連して農業を学べる学校を設立します。学校ができれば人が集まり、人が集まればお金も集まります。そして、人の流れができれば、周辺の不動産価値も上昇します。このような流れの中で、貝塚市としては「利財(りざい)＝利益となる財」を生み出す機会として、このプロジェクトを活用していただきたいと考えています。

次にその仕組みの一例として、「道の駅」の設置を想定しています。一般的に、流通に中間業者が介在するとマージンが発生し、販売価格が高くなります。それを避けるために、生産物を直販できる公共施設を設け、価格の適正化と収益性の向上を目指します。さらに、生産した農産物は他市へ販売してもよし、自家消費でもよしという柔軟な運用にします。状況に応じて最適な判断ができる「二刀流」での展開を想定しています。また、学校給食への供給など、地域の食の安全・安心に貢献する取り組みも行いながら、地域雇用を創出し、転入促進にもつなげていきます。「目の前で作られた農作物を、そのまま提供する」という透明性は、倉庫や中間流通を挟まないことで、消費者にとっての信頼にもつながります。さらに重要なのは、農業はインフレに強いという点です。話題性のある取り組みとしては、農産物をふるさと納税の返礼品として販売し、そこで得られる収益を貝塚市の子育て支援策などに活用してもらえれば理想的だと考えています。



# 発表内容

## プロジェクト名:USK(ユニバーサルスタジオカイツカ)

「USK(ユニバーサルスタジオかいつか)を作りたい」という構想が私たちの意見の中から出ました。

“1日過ごせる複合施設”ですが、それだけでは話題性も弱い。貝塚市に「ここに行きたい！」と思えるような目玉が少ないよね、という話から生まれたアイデアです。「USK」というネーミング自体が目を引き、そして“みんなが一緒に過ごせる場所”としての役割を持つ。そんな複合施設を現実的に考えたいと思っています。

具体的には、多世代が集まり交流できるスペース、勉強や学びの場、子どもを安心して預けられる託児機能、忙しいお母さんたちがリラクセスできる温泉施設など、さまざまな機能を一体化させた施設をイメージしています。

この構想には、「子育てをしている中で感じる“つながり”の大切さ」を反映させています。子育ては一人ではできない。だからこそ、みんなで支え合える場所を貝塚市につくっていきたいという思いがあります。

候補地としては、シェルピア立体駐車場横の土地など、実際に活用が検討できそうな場所も見えてきています。

さらに、貝塚市民にとって「ここに住んでいてよかった」と思えるような施設にしたいという気持ちがあります。その一つとして、子育て応援券が使えるようにするなど、市民が使いやすい制度設計を考えています。



## Bグループ キャッチフレーズ：We LOVE 貝塚

プロジェクト名	パクってなんぼ！！	貝塚LOVE♡を育てよう	
内容	すべての年代の人が集まる施設があれば地域がにぎわう 図書館・カフェ・ホール・自習スペース併設 校区ごとに子どもたちが放課後などに行ける 小企業・個人事業主への貸し出しできるスペース お年寄りと子どもが顔見知りになる場	楽しい 子ども・先生・地域がイキイキとした学校	
具体的なアクションプラン (市民にできること)	クラウドファンディング 貝塚市について考える場を作る	<b>みんなが先生</b> ・新1年生のお手伝い ・農家さんが、生活・理科をお手伝い ・読み聞かせ ・昔あそびのお手伝い ・ママ世代の見守り  <b>先生にゆとりを</b> ・先生の仕事を減らす	<b>給食が地産地消に</b> ・貝塚市の農家さんから仕入れる ・できればオーガニック  <b>放課後の子どもの居場所</b> ・地域みんなで見守る
解決できる課題	みんながつながることで大きな強い力になる 仕事も増える すべての年代が集まりやすいことで、子どもも大人もみんなに関わり 刺激し合い、イキイキする	<b>みんなが先生</b> ・地域のつながり  <b>先生にゆとりを</b> ・子どもとの時間が一番大切 ・子どもに返る ・授業が楽しい！	<b>給食が地産地消に</b> ・子どもたちも生産者が見える ・良い食べ物で子どもが育つ ・食料に困らない貝塚市(災害に強い)  <b>放課後の子どもの居場所</b> ・地域みんなで見守る
行政の強みを活かすとしたら		お金と人をください	

---

---

# 発表内容

## プロジェクト名：パクッてなんぼ！！

貝塚市って、本当にいいところだと思うんです。私は松原市から結婚を機に引っ越してきましたが、海も近くて自然が豊かで、だんじりなどの地域の文化もあって、人とのつながりも深い。歩いているだけでその“温かさ”を感じる、そんなまちだと実感しています。でも、その「いいところ」に、さらに他のまちの「いいところ」も取り入れていけば、もっと魅力的なかたちになるんじゃないかと考えました。だからプロジェクト名は「パクッてなんぼ」。いいものはどんどん参考にして、貝塚らしい形にしていけばいい、という思いが込められています。

私たちが提案したいのは、全世代が集まり、過ごし、つながることのできる複合施設です。そこには、

- ・図書館 ・カフェ ・多目的ホール
- ・中高生が自習できるスペース放課後、子どもたちが一人でも行ける地域の居場所
- ・個人事業主が使えるレンタルスペース(市の収益にもつながる)などを設け、子どもから大人まで、誰もが気軽に集える場所にしたいと考えています。

この施設ができれば、世代を超えて人が交わり、自然に声をかけ合ったり、支え合ったりするようになる。何か困ったことや考えたいことがあったとき、「あそこに行けば、誰かと話せる」「一緒に考えてくれる人がいる」という安心できる場になると思うんです。こうやって、子育てのことを真剣に考える人が集まっている場が、毎日のように当たり前存在すること。それが、地域の底力を生むと思っています。

この構想を実現するために、市民にできることもあると思います。

たとえば、クラウドファンディングでの資金集め、話し合いの場を継続的に設ける、市民参加型のアイデア募集や運営支援など、市が“全部やる”のではなく、\*\*市民が「一緒にやる」\*\*ことで、この場所がより愛され、育てられていくと感じています。この場所ができれば、きっと貝塚市の未来はもっと明るく、もっとあたたかいものになると思っています。



# 発表内容

## プロジェクト名: 貝塚LOVE♡を育てよう

子育て世代が集まり、安心して暮らせるまちをつかっていくには、やっぱり「子どもが楽しく通える学校」が必要だと私たちは思いました。

将来、子どもが小学校・中学校へと進んでいったときに、「学校って楽しい!」「行きたい!」と、子ども自身が思えるような学校であってほしい。そう願って、みんなで話し合いました。

子どもも先生も、地域もいきいきする学校、楽しい学校って、どんな学校だろう?と考えたとき、まず思ったのは先生のゆとりです。先生たちも一人の人間であり、家庭があります。心に余裕を持ち、笑顔で働ける環境があつてこそ、子どもに寄り添う時間が生まれ、楽しい授業や豊かな関わりにつながっていくはずです。

先生が子どもを第一に考えられるような職場環境を整えることが、学校全体の活気につながると信じています。

さらに、授業や学校運営に地域の人に関わることで、子どもたちの学びがもっと広がります。

新一年生のサポートに地域の方が関わったり、地元の農家さんが作物の育て方を教えてくれたり。読み聞かせ、昔遊び、高齢者の方との交流、保護者の見守り活動、こうした地域ぐるみの協力が、学校を「先生と子どもだけの場所」ではなく、私たち大人みんなで育てていく場所に変えてくれると思っています。それによって、学校の中でも、地域の中でも、自然なつながりが生まれ、子育てがもっと安心で、楽しくなるはずです。

そして、もう一つ大切なのが「給食」です。子どもの体は“食”でできています。私たち親自身も、子どもを育てるようになって「ちゃんとしたものを食べさせたい」と、あらためて食を見直すようになりました。

地元で採れた新鮮で安心な食材を使った地産地消の給食は、貝塚の誇れるポイントになると思います。

もし私が子どもだったとしても、そんな学校なら「絶対に行きたい!」と思うはずです。

また、学校を「放課後の居場所」としても活用していくことで、子どもが一人でも安心して行ける場所を増やすことができます。学校・地域・保護者、それぞれの想いがつながって、子どもにとっても、大人にとっても大切な場所になっていく。そんなイメージで話をまとめました。

このように、子どもと地域の人たちが一緒につかっていく学校を通して、貝塚への愛着や誇り——つまり「貝塚LOVE」を育てていくという計画です。



## Cグループ キャッチフレーズ：市民全員で子育て及び介護をやっていこう

プロジェクト名	プレパだよ！全員集合～!!	幼と老のマッチングでHAPPY♡
内容	常設プレーパーク(平日も放課後も) 誰でも参加(中高生・高齢者・障害者・独身者など) 校区に1つずつ 小規模でもOK(公園など)	老人ホームとこども園の併設 スタッフの共有⇒常駐スタッフの確保 制作・手あそびなど活動を一緒にできるレベル⇒楽しさup!
具体的なアクションプラン (市民にできること)	自分たちのできること(得意)を持ち寄る 適任者を探す→スカウト(イベントを主催している人など) 口コミ(SNSを含む広報活動)	あいさつをすすんでする 名前・顔を覚える コミュニケーション(受け入れるマインド・ポジティブワード)
解決できる課題	安全な子どもの居場所(学童問題) 多様な人との交流 子どもたちの成長・経験	いのちを肌で感じる 笑顔が増える(相乗効果) 孤立しない 核家族の問題点を解決
行政の強みを活かすとしたら	備品庫(道具も)・場所の確保 スタッフへの十分な報酬 保険	人にお金を使う!!(この仕事をしたい！生活できる！と思えるように)

# 発表内容

## プロジェクト名: プレパだよ！ 全員集合～！！

私が仕事を始め、子どもが小学生になったとき、放課後の過ごし方について真っ先に浮かんだのは「学童に預ける」という一択でした。でも正直、それしか選択肢がないことに、少し困ったな…と思ったのです。学童が合う子もちろんいます。でも、そこが合わない子どもにとっては、ほかに居場所がない。居場所がないと、親は安心して働けない。そんな現実と直面して、私は思いました。「じゃあ、うちの子どもにはどんな場所で放課後を過ごしてほしい？」その答えが、「プレーパーク」だったんです。いつでもそこにある、誰でも来られるプレーパーク。

プレーパークが子どもたちの放課後の居場所になるには、どんな場所がいいのか。私たちはみんなです話し合いました。

まずは常設であること。イベント的にたまに開かれるのではなく、平日も放課後も、いつもそこにある居場所であってほしい。そして、誰でも来られる場所。親子だけでなく、中高生も、お年寄りも、障がいのある方も、単身者も、子どもがいないご夫婦も、、、どんな立場の人でも自然に集まれる場所にしたいと考えました。できれば、子どもが自分の足で歩いて行ける距離にあること。だから校区にひとつずつ、小規模でもいいから公園の一角で開催できれば十分。そうすれば子どもたちにとっても、「ふらっと立ち寄れる居場所」になります。じゃあ、このプレーパークをどうやって実現するか。

実現に向けて、市民ができることとして、私たち市民は、自分の得意なことを持ち寄って、プレーパークのリーダーとして関わる。毎日じゃなくてもいい。無理なく、できる範囲で参加すればいい。ただし、常設を実現するためには、常駐スタッフの存在が不可欠です。そういう人材はどこにいる？——実は、土日に子ども向けのイベントや、外遊び活動をしている人たちがたくさんいます。そういう方たちは、平日は比較的時間に余裕があるという話も聞きます。遊びのスキルや子どもとの関わりの経験がある人たちを、プレーパークの担い手としてスカウトできれば、きっと心強い存在になると思います。

そして、私たちにできるもう一つの大事なことが「ロコミ」。

「ここに子どもたちが集まってるよ」「すごく楽しそうだよ」「安心できる場所があるよ」そんな声が広がれば、自然と人が集まってくる。参加のハードルも下がります。

◎行政にお願いしたいこと

場所の確保: すでにある地域の公園で大丈夫です。道具の使用許可: プレーパークでは火や水、金づちや工具など、ちょっとした“危ない”道具も使いたい。だからこそ、安全に使えるようにするための許可をお願いします。

備品庫の設置: 遊具や道具をきちんと管理できる収納スペースが必要です。

スタッフへの報酬と保険の整備: 責任ある人材を確保するには、適切な報酬と安全のための保険が必要です。

プレーパークが生む地域の未来: このプレーパークが実現すれば、子どもの安全な放課後の居場所になる、学童の選択肢が増える、多様な人が集う地域コミュニティが育つ、子どもの成長に大切な経験がたくさんできる、そんな未来が待っていると思います。そして、地域の大人たちが日頃から子どもと関わっていれば、「子どもって手がかかるけど面白い」「一緒に遊ぶってこんなに楽しい」「子育てって、ちょっと自分にもできそう」そんなふうを感じる人が増える。子育てへの理解とハードルが、ぐっと下がると思います。



## 発表内容

### プロジェクト名: 幼と老のマッチングでHAPPY♡

これは、私自身の家族の困りごとから生まれた提案です。

私の両親は、現在介護が必要な状態です。ヘルパーさんの力を借りながら過ごしていますが、基本的には一人きりの時間が長く、誰とも関わることなく、日々を過ごしています。そのために、心も身体もどんどん衰えていってしまっている——そんな現実を目の当たりにしてきました。

「こんなふうに、一人きりじゃなく、楽しく過ごせる居場所があったらいいのに」

そう願う気持ちから、今回のアイデアが生まれました。

私たちが考えたのは、高齢者施設と子ども園を併設するというアイデアです。

たとえば、老人ホームの中では、手遊びや工作、歌など、制作活動をされていることが多いと思います。その時間に、子どもたちが一緒に参加できるようにしたらどうかと考えました。

お年寄りたちは、ただ何かを“やらされている”のではなく、子どもたちと一緒に楽しみながら過ごす。子ども扱いではなく、「この子たちを楽しませよう、一緒に遊ぼう」という思いで関われば、自然な笑顔や生きがい生まれると思います。

スタッフも“共有”して、安心の体制をまた、子ども園と老人ホームを併設することで、スタッフの共有が可能になります。たとえば、看護師や栄養士など、どちらにも必要な専門職は、今は施設を掛け持ちしていることが多く、常駐できないケースがあると聞いています。でも、2つの施設が一体になれば、1つの場所に常駐できる体制が整いやすくなるのではないのでしょうか。利用者にとっても、スタッフにとっても、より安心できる施設になると考えています。

#### ◎市民にできること

地域の高齢者や保護者など、誰でも気軽に関われる形で「おはよう」と声をかける、顔と名前を覚える、ちょっとした会話を交わす、そんな小さなコミュニケーションの積み重ねが、この施設を温かく育てる力になると思います。

◎行政にお願いしたいこと: この施設に関わるスタッフへの報酬や雇用の安定に、もっと投資していただきたいと思っています。「この仕事がしたい」「この仕事でしっかり生活できる」そう思えるだけの賃金や待遇が整っていることが、施設全体の質を高めるカギです。

このような「幼と老のマッチング」によって、何よりも、そこには笑顔が生まれます。一緒に何かを感じたり、作ったり、話したりする中で、「知らなかった世代」との出会いから、それぞれの課題の解決につながっていくと思います。



## Dグループ

プロジェクト名	パパママ1年生プロジェクト	給食安心安全プロジェクト
内容	10年後も、20年後も市民みんなが学び続ける子育て術 手を出さない、手を上げない、大声を出さない子育ての方法 「ペアレントトレーニング講座」の実施	校区の畑でとれた野菜を使った給食の提供
具体的なアクションプラン (市民にできること)	知ってもらおう・・・幼稚園や保育園での講演会の開催→小学校PTA・家庭教育学級 での講演・ペアトレについての絵本の作成 ↓ 興味をもってもらおう・・・受講者の声を届ける(インスタ、チラシの作成・配布) ↓ 受講してもらおう(行政の強みに記載)	小学校の保護者で農家からのオーガニック(有機栽培)で給食をしようとする動きあり
解決できる課題	子育てに心の余裕がもてる!! 虐待が減る!! 親子の関係が必ず良くなる!!	食に興味のある人が引っ越してくる 荒れた土地の活用にもなる 緑が増える
行政の強みを活かすとしたら	受講してもらおう・・・市からの受講料(講師謝礼)の補助、子どもの保育	

---

---

# 発表内容

## プロジェクト名：パパママ1年生プロジェクト

子育てって、すごく閉ざされた世界だと思うんです。私自身も経験しましたし、周囲からもよく耳にします。学校では教えてくれない。出産後に家庭に赤ちゃんがやってきても、誰も何も教えてくれない。

オムツの替え方や離乳食の作り方は、ママパパ教室で教えてもらえます。

でも、「子どもがこうなったとき、どう声をかけたらいいのか?」「子どもを動かすにはどうしたら?」——そういった日々のリアルな子育ての困りごとには、誰も答えてくれないんです。結果として、自分が親から受けた子育てをそのまま再現するしかない。

まるで「師匠の教えをそのまま引き継ぐ」ような、今の時代には合わないやり方で、私たちは子育てしているんです。

私たちの提案、それが「パパママ1年生プロジェクト」です。

このプロジェクトの目標は、10年後20年後も、「手をあげない」「怒鳴らない」子育てを地域全体で支えること。キーワードは、「ペアレントトレーニング(通称:ペアトレ)」です。親も子育てを“学び続ける”ことができる仕組みです。

すでに海外や一部地域では広まり始めていますが、貝塚市ではまだ認知度が低く、知らない方も多いのが現状です。

市民への認知を広めるために、次の取り組みを提案します。

幼稚園・保育園での講演会開催:保護者向けにペアトレの意義を伝える機会をつくります。

乳幼児健診や半年健診で絵本を配布:もっと早い段階で知ってもらえるように、親しみやすい絵本を作成し、健診時に配布します。

経験者の声を届けます。実際にペアトレを受講した市民の声や体験談を集め、興味・関心を高めていきます。

私自身、半年間(全10回・各2時間)の講座を受けました。費用は1人で2万1,000円。夫婦で受けると約4万円。

時間もお金もかかるのに、目に見える「ごほうび」はない。それでも、得られたのは、子どもへの関わり方の理解、自分自身の感情との向き合い方、家庭の雰囲気の変化。そうした“目に見えないけれど確かな成果”です。

だからこそ、市には補助制度の創設をお願いしたいです。「ペアトレ」という言葉は知らなくても、「補助金」で検索する人は多い。検索ワードから入って、知って、興味を持って、受講につながる流れをつくれたらと思っています。

ペアレントトレーニングは確実に効果があります。虐待が減る!子どもの不登校が減る!親も子どもも笑顔が増える!

これは、私自身が実感したことです。だからこそ、確信をもって伝えます。ペアトレは、家庭だけでなく、地域の未来を守るための投資です。

ぜひ「パパママ1年生プロジェクト」を第6次総合計画に組み込んでいただき、すべての親に学びのチャンスが届くようにしてもらいたいです。



# 発表内容

## プロジェクト名:給食 安心 安全プロジェクト

私は今、4歳の双子と、0歳(現在9か月)の子どもを育てています。

普段から子どもと一緒に貝塚市内で過ごす中で、「あ、貝塚って子育てにいいな」と感じる事がたくさんあります。自然も多く、遊び場も充実しているし、公民館やえーののような、学びの場もとても豊かです。離乳食講習会などでは、栄養や咀嚼の大切さを教えていただけて、すごくありがたいなと思っています。

でも、そうやって学んだ「食の大切さ」が、小学校や公立幼稚園の給食で、あまり活かされていないのでは? と感じる事があります。

私の子どもは今、公立幼稚園に通っており、小学生と同じ給食を食べています。日々のメニューや食材を見て、「あれ? ちょっと雑じゃない?」とモヤモヤすることもあります。実際にわが子が食べるようになって、食の安全安心は、自分で知ろうとし、関わっていくこと、活動することって大切なんだと気づきました。

私たちの提案は、「小学校給食の一部を、地元産・有機栽培のものに変えていこう」というものです。まずは変えやすい食材から少しずつ市からの補助で、保護者の負担が増えないように、むしろ今より少し安くなれば、より歓迎されるかもしれません「体に良いものを子どもに食べさせたい」という想いは、どの保護者も持っているはず。もしそんな給食が実現したら、子どもたちが学校に行くのがもっと楽しみになる。「給食がおいしいから、今日は行ってみようかな」と、学校に足を向けるきっかけになるかもしれません。

地元の畑で採れた野菜を給食に使えば、荒れた土地の再活用、地域の農業活性化、緑が増える環境づくり、子どもたちの「食べる=生きる」実感にもつながっていきます。

食はやはり大事だと思いますので、どうぞよろしくお願いします。



# 投影資料

**貝塚市**  
**子育て世帯ワークショップ**  
 貝塚市の未来をみんなで考えて、  
 もっともっと魅力的なまちに！

はじめに

ワークショップの前に  
 貝塚市の現状と将来予測に  
 についてお話しします。

**人口減少の要因①**

合計特殊出生率

年	貝塚市	大阪府	全国
2008~2012年	1.39	1.32	1.30
2013~2017年	1.43	1.37	1.35
2018~2022年	1.35	1.33	1.29

人口の維持には2.07以上が必要

なぜ子どもを産まないんだろう  
 なぜ産めないんだろう  
 それを解決する方法は？

ワークショップの目的

「第6次貝塚市総合計画」の策定にあたり、市民の想いやまちづくりのアイデアを計画に反映させるため、これからの貝塚市について語り合ってください。

むずかしく考えず、思ったままアイデアを出してください！

**貝塚市の人口**

年	人口 (人)
1980年	81,162
1990年	79,234
2000年	88,523
2010年	90,519
2020年	84,443

2025.6月現在 81,020人  
 (住民基本台帳による人口)

**人口減少の要因②**

年代別転出超過数

20歳代の転出超過が続いている

なぜ若者は貝塚を離れていくんだろう  
 それを解決する方法は？

総合計画とは？

地方自治体における行政運営の最上位計画で、将来のまちのあるべき姿と進むべき方向について、すべての市民や事業者、行政が共有して、行動するための基本的な指針となるものです。

第6次計画は  
 令和8年～令和19年までの  
 12年間の計画を予定しています。

**将来予測**

年	人口 (人)
2020年	84,443
2030年	76,635
2040年	68,149
2050年	59,365

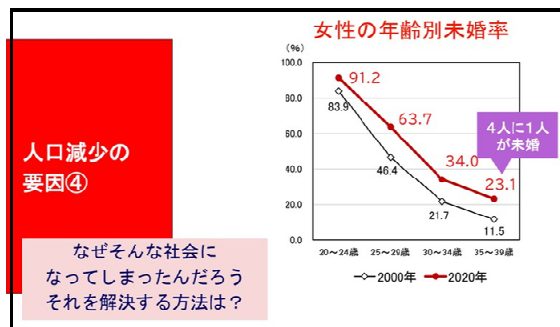
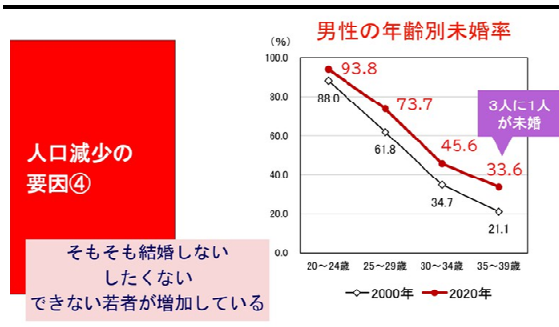
このまま何もしなければ人口減少がさらに加速

これからの25年間で2万人以上減少する見込み

**人口減少の要因③**

「おうち買ったんで●●市に引っ越します」  
 「住むところ探す時貝塚市は候補にあげられない…」

なぜ転入先を探す時、貝塚市は選ばれないんだろう  
 なぜマイホームを持つ時、貝塚市は選ばれないんだろう  
 それを解決する方法は？



ワーク  
ショップの  
テーマ

若者・子育て世代から  
選ばれるまち  
かいづか

10年後の貝塚市に思いを馳せ  
貝塚市の良さや特徴を活かして  
今からできることのアイディアを  
出し合ひましよう

ワーク  
ショップの  
キーワード

1、市民協働  
2、予防>対処

1、市民協働  
とは？

地域課題の解決や社会的な目的  
の実現に向けて、市民（団体や事業  
者など）と行政（市や自治体）が  
連携・協力し合うこと

市民協働の  
ポイント

相互理解  
目的・目標の共有  
対等の関係

市民協働の  
ポイント

行政の強み	市民の強み
信頼性	当事者性
公平性	多様性
予算	柔軟性

お互いの強みを尊重しあい  
活かし合う



2. 予防>対処とは？

コトが起こってから  
でなく、  
コトが起こる前に

健康アプリ  
かいづか  
介護予防  
マイレージ



若者・子育て世代から  
選ばれるまち  
かいづか

ワーク  
ショップの  
テーマ

10年後の貝塚市に思いを馳せ  
貝塚市の良さや特徴を活かして  
今からできることのアイディアを  
出し合しましょう

①未来シートの  
記入  
(①②③で  
15分)

10年後のご家族が  
どうなっているかを  
イメージして書いてください。

発表はしませんので  
想像を膨らませて、  
自由に書いてください

②貝塚市の  
いいところを  
書く  
(①②③で  
15分)

ふせん1枚につき  
1つ書いてください。  
思いつくまま、何枚も  
書いてください。

③自己紹介  
(①②③で  
15分)

お名前、お子さんの年齢、校区、  
ふせんに書いた  
貝塚市のいいところを読み上げ  
模造紙に貼り出してください。

似たような内容は  
その近くに  
貼りましょう

④グループ  
発表  
(10分)

参加者全員で  
貝塚のいいところを  
共有しましょう

⑤課題記入  
(⑤⑥⑦で  
30分)

子育て世代の皆さんから見て  
「貝塚市がもっと  
こうだったらいいのに」を  
ふせん1枚につき  
1つ書いてください。

I 子育て・学び II 仕事・にぎわい  
III 安心・安全 IV 環境・暮らし  
V 共生・参加

⑥グループ内  
共有  
(⑤⑥⑦で  
30分)

ふせんに書いたものを  
発表して  
用紙に貼ってください。

**⑦解決策を  
考える**  
(⑤⑥⑦で  
30分)

思いつく解決方法を  
ふせん1枚につき  
1つ書いて貼り出してください。

まずは自分たちで解決する方法を  
考えてみましょう  
(行政まかせにしない)  
貝塚市のいいところを  
おおいに利用しましょう

**⑧テーブル  
共有**  
(兼休憩)  
(10分)

ほかのグループを見て、  
解決策が浮かんだら  
ふせんに書いて  
貼り付けてください。

**⑨取り組む  
課題を決定**  
(⑨⑩で50分)

どの課題に取り組むか  
話し合って2つ決めてください。

I 子育て・学び II 仕事・にぎわい  
III 安心・安全 IV 環境・暮らし  
V 共生・参加

**⑩企画書作成**  
(⑨⑩で50分)

- 1、プロジェクト名
- 2、プロジェクトの内容
- 3、具体的なアクションプラン  
(市民にできること)
- 4、解決できる課題
- 5、このプロジェクトに行政の  
強みを活かすとしたら

未来の貝塚市のキャッチフレーズ

**⑪グループ  
発表**  
(1グループ  
7分程度)

貝塚市をもっともっと魅力的な  
まちにするために  
おおいに語ってください。

## 配布資料

①未来シート 私たち家族の10年後

私の年齢 才	パートナーの年齢 才	お子さんの年齢 才(学年)
-----------	---------------	------------------

「こうなっている」「こうなってほしいな」を自由に書いてください。

まずはどの分野に取り組みか決める

- I 子育て・学び
- II 仕事・にぎわい
- III 安心・安全
- IV 環境・暮らし
- V 共生・参加

解決する課題は？

プロジェクトの内容

具体的なアクションプラン  
(市民にできること)

プロジェクト名

このプロジェクトに行政の強みを活かすとしたら  
(信頼性・公平性・予算)

